

が2つ連続して出てきた。おまけに最初のはハング滝となっている。合流する支沢かと思いきや、これが本流である。とても登れたものではないので、左岸を捲いて上に出る。するとそのうえにまた10m。合わせて左岸を捲く。

あとは小滝こそ出てくるものの、特に問題となるようなところもないままで源頭となってしまった。稜線直下までつめあげてから、三ノ沢の下降に移るべく尾根に上がる。

(記・

[タイム] 山本不動尊(5:55)→一ノ沢出合(6:20)→終了(7:35)

ホ

南沢~~ニ~~ノ沢右俣,
右俣源流左ルンゼ, 左俣

1986年8月17日

山本不動尊から30分歩いて二ノ沢出合着。今月初めの台風くずれの大雨で2カ所橋が流されていて、ちょっとトラブった。

ウェディングシューズになってからは、身仕度も簡単。直ちに二ノ沢の遡行に足かる。出合から少し入ったところに4mの滝。左岸を直登して越える。続く4mは、シャワーで直登。これは幸先が良い。

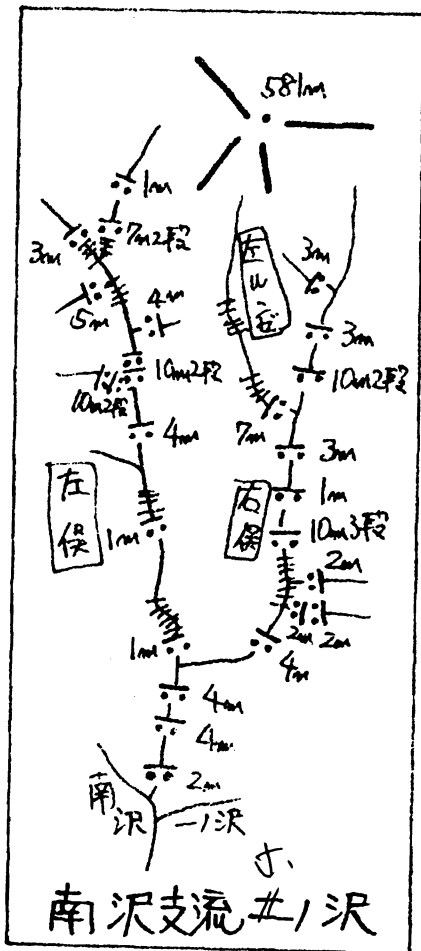
やがて二俣。左俣は暗い樹林帯の中の流れが続き、右俣は明るい伐採地の中の流れとなっている。水量の多い右俣にルートをとる。

しばらくは平凡な流れとなる。1カ所だけヤブのうるさいところがあるが、ごく短い間だけである。

4mのナメ状滝を直登すると、沢はまた暗い樹林帯の中を流れるようになる。同時に、滝が出てきた。まず10m3段。1, 3段目は右岸を、2段目は真中を直登する。ホールドは豊富である。そして小滝が続く。

左ルンゼ出合の先にも10m2段の滝がある。水の流れている部分にそって直登するが、水量は少なく、シャワーとはならなかった。ホールドは豊富だが、岩がモロイ部分があった。この先は急傾斜になって、稜線直下まで細々とした流れが続いた。沢としては短いが、初心者が充分楽しめるなかなか変化に飛んだ沢であった。

尾根上のかすかな踏跡をたどって、581m独標(尾根上の小さなコブ。展望はきかない)に達し、そこから右俣源流左ルンゼの下降に移る。源頭の急斜面を5分ほど下ると、水流が出てくる。右俣を遡行してゆく時、7mの滝があり、岩質か



らいてその先にも滝がかりそうということで、このルンゼも調査対象としたのである。ところが、出合にかかる7mの滝以外には何もなく、期待にはこたえてくれなかった。

出合の7m滝は左岸の樹林帯を下る。下ってから直登に挑戦。ホールド豊富でいろいろにルートがとれそうであるが、今回は左岸を直登した。

581m独標に戻って、8:10左俣の下降開始。急斜面を5分も下ると沢筋に出た。

下り始めるとすぐナメ床となり、7m 2段滝が出てくる。上段はクライミングダウンできたが、下段はちょっと無理。右岸の樹林帯を下る。幸先は良い。

しばらく下ると、今度は10m二段の滝が出てきた。ここはナメ状になっているので、なんとかクライミングダウンできた。そしてすぐ4m滝。ここもクライミングダウンした。

あとは暗い樹林帯を流れるだけの平凡な流れとなり、右俣出合へ。 (記

[タイム] 山本不動(5:55)→三ノ沢出合(6:25)→左俣出合(6:35)→右俣終了(7:25)→左ルンゼ下降開始(7:40)→左ルンゼ下降終了(7:55)→左俣下降開始(8:05)→右俣出合(8:10)→南沢出合(8:55)

南沢支流 #1 沢 右俣, 左俣

1986年7月5日

尾根上のかすかな踏跡をたどって、標高約690mの小ピークに出る。そこから三ノ沢に向けて下降開始。割合と急なブナ林の斜面を下ると、すぐ沢筋にでた。

三ノ沢も、ずっと花崗岩の沢である。小滝がほぼ等間隔に出てくるが、落差が小さい上、ホールド、スタンスがおおく、おまけにフリクションがよくきいて、楽にクライミングダウンできる。